

ポイント

- ◆すべての発達障害のある子どもが子育て支援の場で支援を受けられ、必要な子どもには専門的な支援を提供
- ◆子どもを支えていくために発達障害の正しい理解を推進



KPI	基準値(R1)	現在の状況(R4)	目標値(R5)
健診後のアセスメントの場への専門職（心理職・言語聴覚士等）の関与	18市町村等	27市町村等	全市町村
児童発達支援センターの設置数	6か所	6か所	12か所
発達障害の診療ができる医療機関数	25か所	29か所	35か所
発達障害者支援センターにおける情報発信（ホームページのアクセス数）	220件/月(R3)	414件/月	1,500件/月

乳幼児健診で要経過観察となった子どものアセスメントを多職種で行い適切な支援につないでいる。(R5) 100%

現状と課題

- 乳幼児健診等で発達が気になる子どもは約40%とされているが、より専門的な支援を必要とする子どもは約15%程度（※1）  
⇒ 子どもとその家族にとって良いタイミングで支援につなげるためには、専門職の視点を踏まえたつなぎが必要

※1：高知ギルバーク発達神経精神医学センター疫学研究

※2：県立療育福祉センターの受診待機期間 ※3：R4高知県障害者計画策定に向けたアンケート調査

- 医療機関の受診待機期間は改善傾向（1年半→3か月程度）（※2）
- 心の診療ニーズの高い子どもには関係機関が連携した対応が必要  
⇒ 医師や専門職の養成と地域でのネットワークづくりが必要
- 発達障害をはじめとする障害のある子どもや家族が住みやすいと感じられていない（「住みやすい」「まあまあ住みやすい」：24.9%）（※3）  
⇒ 発達障害の正しい理解促進が進んでいない

令和5年度の取り組み

（1）身近な地域における子どもと家族への支援

- ・発達ที่気になる子どもが個々に合った支援につながるよう、市町村が実施する乳幼児健診などに専門職（心理職や言語聴覚士等）が関与する体制づくりを推進
- ・保育所等における受入体制の充実（子どもの状況に応じた指導計画の作成支援など）
- ・専門家等の巡回による支援の充実（医療・福祉・教育の連携の推進）

（2）ライフステージに応じた専門的支援

- ・専門的な療育機関の量的拡大と質の向上
- ・高知ギルバーク発達神経精神医学センターや高知大学医学部寄附講座との連携による専門医師及び心理職の養成

- 拡** 不登校やうつなど子どもの心の問題に対応するための地域連携体制の強化（子どもの心の診療ネットワーク事業の拡充）

（3）発達障害の正しい理解の推進

- ・世界自閉症啓発デーに合わせたライトアップや啓発イベントの実施

- 拡** 感覚の過敏さなどがある子どもに配慮したセンサー・フレンドリーな取組の推進（取組を行う施設の拡大）

- ・広く理解を深めるため発達障害者支援センターなどにおいてSNSを活用した情報発信

